

児童会活動（異年齢集団活動）指導案

指導者 山口裕美 土子和子 飯田浩彦 居嶋悦子
高崎敏雄 小沢祥代 鬼澤利子

1 題材 「わくわくウォークラリー２０１０をしよう」

2 題材について

(1) 題材設定の理由

本校は、全児童が４９人であるため、児童一人一人に活躍の場があり、教師の目も行き届くという小規模校ならではのよさがある。これまでの実践を通して、自分の思いや考えを言葉に表して伝える力が少しずつ高まってきている。そこで、今年度も「望ましい集団活動の活性化を図るコミュニケーション能力の育成」を主題とし、学級での話し合い活動を土台にして、本校の特色である縦割り班活動に焦点を当てた研究を進めてきた。

実践としては、主に「縦割り班清掃」や「班対抗リレー」、「無言絵かきゲーム」、「校内ウォークラリー」の取組をしてきた。

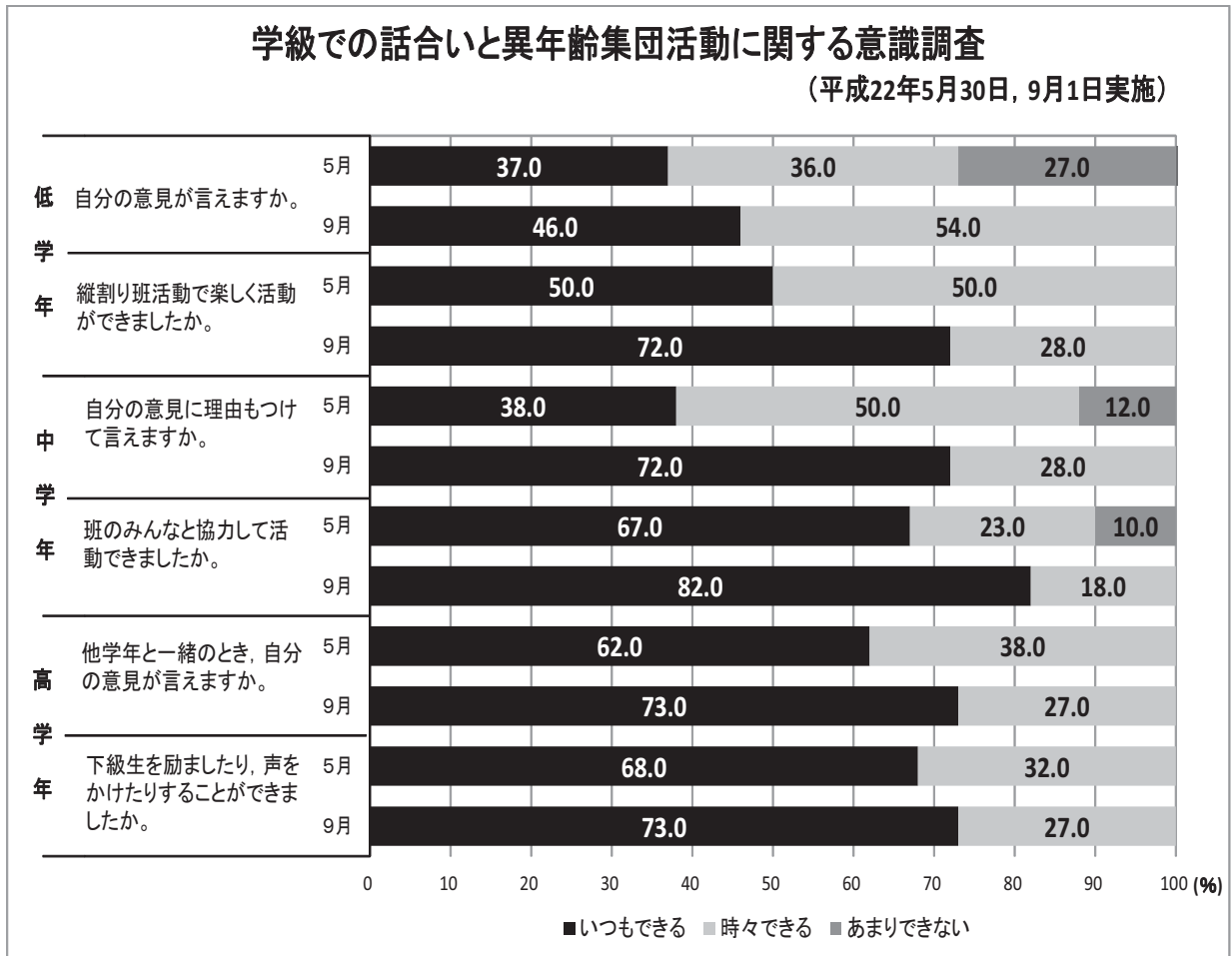
今年度は、これまでの実践を発展させるため、７つの縦割り班が児童集会の企画・運営をする取組も進めている。

「ウォークラリー」は、昨年度も行った活動であるが、「また、校内ウォークラリーをやってみよう」という児童の声が多かったことと、より望ましい人間関係をつくり、コミュニケーション能力を育成する題材として効果的であると考え、本題材を設定した。

(2) 児童観

これまでの実践で、お互いのよさを認め合い、自分の意見を持ち、発表する力が育ちつつある。反面、練り上げる力は十分に育っていない。

そこで、本年度５月と９月に、学級での話し合いと異年齢集団活動に関する意識調査を実施した。下のグラフは、その意識の変化の結果である。



意識調査の結果から、話し合い活動全体としては、自分の意見を進んで発表できる児童が増えてきていることが分かる。

縦割り班活動では、異年齢間での親しみが増し、スキンシップや会話が増えてきて、児童が喜んで活動に参加している様子が見られた。この縦割り班での体験を通して得られた力は、学級での活動の中にも、今まで以上に広がりつつある。

低学年では、みんなと活動することを楽しめるようになってきた。中学年では、班のみんなと協力して活動しようとする意識が高まってきている。高学年では、学校のリーダーとしての意識が高まり、自ら進んで活動する場面や下級生に対しての気配りをする場面が多く見られるようになってきている。

(3) 研究テーマにせまるための手立て

本活動では、
 ①縦割り班や学校全体で活動する楽しさを味わいながら、よりよい人間関係を築く力を育成することを通して、コミュニケーション能力を高めていくこととし、指導に当たっては、学年の発達段階に応じためあてを設定して取り組むことで、適切な指導を心がける。
 活動中は、評価カードを使って支援に当たり、ねらいにそって活動している児童には称賛の言葉をかけたり、班全体の中で認めたりする。また、児童の意欲を高めるために、校内の各所に、自分たちがつくったウォークラリーのグッズを配置する。
 道徳的実践の指導の充実を図る観点からも、内容項目2の(3)との関連で、低学年では「仲よく助け合う」、中学年では「協力し合う」、高学年では「信頼し支え合う」の実践も効果的に行っていく。
 活動後は、各学級で振り返りカードを使い、班のためがんばったことや気付いたことを記入し、友達のよさにも目が向けられるようにする。また、後日校内放送や掲示板を通して、友達とのコミュニケーションがよかった児童を紹介し、そのよさを全校児童に広げていく。

3 活動計画及び評価規準

(1) 活動計画

月 日	活動時間	活動の主体	活 動 内 容
9月 1日	帰りの会	各学級	意識調査
9月 3日	昼休み	実行委員会	ウォークラリー実行委員会の発足とウォークラリーのネーミング及び内容募集
9月22日	昼休み	実行委員会	ウォークラリーの内容の絞り込み（2種類）
9月24日	帰りの会	各学級	どちらのウォークラリーをやりたいか、自分の意見をもつ
9月27日	学級活動	全校児童	ウォークラリーの内容決定「全校での話合い活動」
9月30日	昼休み	実行委員会	ウォークラリーの計画・準備
10月 1日	昼休み	縦割り班リーダー	ウォークラリーのルールやクイズについて
10月 4日 11月 4日	昼休み	縦割り班ごと 各学年ごと	ウォークラリーのクイズづくり グッズづくり
11月 8日	5校時 (本時)	全校児童	わくわくウォークラリー2010をしよう

(2) 評価規準

低学年	中学年	高学年
<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の意見をよく聞いたり、自分の意見を言うことができる。 ・ だれとでも仲よく活動できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異なる考えについてもはっきり聞いたり、理由をはっきりさせて意見を言うことができる。 ・ 協力し合って活動できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と自分の意見を比べながら、賛成・反対意見を述べることができる。 ・ 信頼し支え合って活動できる。

4 本時の活動

(1) ねらい

低学年	友達の意見をよく聞き、だれとでも仲よく活動できる。
中学年	異なる意見についてもはっきり聞き、理由をはっきりさせて意見を言い、協力し合って活動できる。
高学年	友達と自分の意見を比べながら意見を述べることができ、信頼し支え合って活動できる。

(2) 準備・資料

目安時計 クイズの答え 等賞旗 縦割り班の旗（7つ） 評価カード

(3) 展開

題材 わくわくウォークラリー 2010をしよう。							
児童の活動・内容	教師の支援と評価(◎)						
1 始めの言葉 (実行委員長) 2 ウォークラリーについての確認をする。(実行委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員主体で進行させる。 ・ウォークラリーのやり方については、事前に掲示板や校内放送等で全児童に知らせてあるが、再度ルールの確認・徹底を図るようにする。 						
<p>【ウォークラリーの内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の班でつくった問題は解かない。 ・クイズの用紙は、校舎内(職員室、校長室、給食室は除く。)のどこかに掲示してある。 ・必ず歩いてクイズに答えていく。 ・スタートとゴールは、班全員そろって。二人以上で行動する。 ・クイズを見付けるための目印に、班ごとのキャラクターがクイズに付けてある。 ・体育館に戻ってきたら、各班ごとに答え合わせをする。 ・正解数の多い班を勝ちとする。正解数が同じ班がある場合には同点とする。 ・ウォークラリーの終了は、校内放送で知らせる。 							
3 班ごとに、作戦の話合いをする。 ○ 校内のどこから探すか。 ・1階から ・2階から ○ どんな工夫をするか。 ・みんなで ・2人ずつ ・手分けして	◎【発表・観察から】 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>低学年</td> <td>友達の意見をよく聞くことができる。</td> </tr> <tr> <td>中学年</td> <td>異なる意見についてもじっくり聞き、理由をはっきりさせて意見を言うことができる。</td> </tr> <tr> <td>高学年</td> <td>友達と自分の意見を比べながら意見を述べるができる。</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・班の中で、自分の意見が言いにくい児童に対しては、教師が聞き役になり支援する。 ・各班の担当者は、自分の班の児童を中心に見るようにし、他の班のがんばりやよさも附箋にメモし、担当者に渡せるようにする。 	低学年	友達の意見をよく聞くことができる。	中学年	異なる意見についてもじっくり聞き、理由をはっきりさせて意見を言うことができる。	高学年	友達と自分の意見を比べながら意見を述べるができる。
低学年	友達の意見をよく聞くことができる。						
中学年	異なる意見についてもじっくり聞き、理由をはっきりさせて意見を言うことができる。						
高学年	友達と自分の意見を比べながら意見を述べるができる。						
4 ウォークラリーを実施する。 (1) 校内ウォークラリーをする。 (2) クイズの答え合わせをする。 (3) 成績発表をする。	◎【観察から】 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>低学年</td> <td>だれとでも仲よく活動できる。</td> </tr> <tr> <td>中学年</td> <td>協力し合って活動できる。</td> </tr> <tr> <td>高学年</td> <td>信頼し支え合って活動できる。</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・評価カードを活用し、各学年のめあてが達成できているかを見取り、励ましや称賛の声かけをする。 ・チームワークのよさを十分誉める。 	低学年	だれとでも仲よく活動できる。	中学年	協力し合って活動できる。	高学年	信頼し支え合って活動できる。
低学年	だれとでも仲よく活動できる。						
中学年	協力し合って活動できる。						
高学年	信頼し支え合って活動できる。						
5 ウォークラリーの振り返りをする。 ○ 感想を発表し合う。 ・友達のよかったところ ・がんばったこと ・次回に向けてのアイディア	<ul style="list-style-type: none"> ・評価カードを活用し、各学年のめあてが達成できているかを見取り、励ましや称賛の声かけをする。 ・チームワークのよさを十分誉める。 						
6 担当の先生の話す班ごとに聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・話合いの内容、ウォークラリー中の態度などを評価し、今後の実践への意欲を持続させるような言葉かけをする。 						
7 終わりの言葉 (実行副委員長)							

5 事後の指導

- ・よりよいコミュニケーションができた児童を、校内放送や児童集会、掲示物等で紹介していく。
- ・児童全員が、「わくわくウォークラリー2010」の企画・運営に携わったことで、みんなで作ったということを実感させ、今後の学校生活にも自信がもてるように励ましていく。